

科目名	履修学年	単位数	教科書	副教材等
家庭基礎	2	2	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）	2023 生活学 Navi 資料+成分表(実教出版)

評価の観点	到達目標および評価の内容
a 知識・技能	学習を通して生活する上で必要な基礎的・基本的な知識・技術を身に付けている。また自らの生活との関連性について理解でき、学習内容を自らの生活に反映させ、検討することができる。
b 思考・判断・表現	充実した生活を送る方法について具体的に考え、自己の生活意識を見直し適切に判断できる。また、自分の考えを整理し、レポートや課題等で表現することができる。
c 主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返りから改善して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価の方法	
各定期考査、課題等の提出状況、学習活動への取組などの総合評価となります。	

年間指導計画											
前期					後期						
月	予定 時数	学習内容	評価の観点			月	予定 時数	学習内容	評価の観点		
			a	b	c				a	b	c
4	1	オリエンテーション			○	1	3	第7章 衣生活をつくる			
	3	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる		○	○			1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	○	○	○
	4	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	○	○	○	2	3	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	○	○	○
5	8	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	○	○	○		2	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	○	○	○
6	2	第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して			○		3	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 生活の文化と知恵 4 これからの住生活	○	○	○
	12	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 これからの経済生活	○	○	○	3	2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ ・家庭生活の問題とその解決	○	○	○
7			○	○			6	第11章 これからの生活を創造する 1 生活をデザインする	○	○	○
8			○	○							
9			○	○							
10	21	第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える	○	○	○						
11		5 調理の基礎	○	○							
12		2 食事と栄養・食品 3 食品の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵	○	○	○						

計 70

※原則として一つの単元ですべての観点について評価するが、特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

#### 履修上および学習上の留意事項

- ・授業には教科書・資料集・A4ファイルを持参して下さい。(必ず記名のこと)他に必要なものがある場合は別途連絡します。
  - ・課題(提出物)については、その都度(基本毎授業)連絡します。提出期限までに必ず提出して下さい。
  - ・実習ではエプロン・三角巾を使用します。準備をお願いします。
- 学習方法 ・よりよい生活を営むために、自分の生活や社会の話題などに関心を持ちましょう。  
・社会の変化や社会の話題に関心を持つためには、新聞やニュースを観ることを勧めます。